

タブノキの北限地域におけるカシワの林相について

本 瀬 晴 雄

会誌第 29 号に、タブノキの北限地域秋田県本荘市親川御獄神社林のイノデータブノキ群集の報告をしたが、その中で、この一帯には、ヤブツバキ群落、エゾイタヤーシナノキ群集、カシワ群落、ケヤキ群落等が見られる事を紹介した。今回は、この中のカシワ群落について報告したい。

新潟県柏崎町の海岸を北の方に出はざると、小丘陵状の急斜面が海岸に迫っている。このような地形は、これより北に、所々に現れ、日本海沿岸を山形県、秋田県、青森県と続く。これらの急斜面は日本海からの強い季節風が直撃する所で、このような斜面上に点々とカシワの風衝低木林の分布が見られる。御獄神社林のカシワ群落もその一つであり、この神社林の日本海に面した北西斜面上に発達した風衝低木林が形成されている。(写真1)



写 真 1

ここのカシワ群落には、ガマズミ、エゾイタヤ等が低木層に混生している。また、草本層にはセンニンソウ、オヤマボクチ、アキカラマツ、ワラビなどが見られる。宮脇 昭によれば、この地域のカシワ群落は、エチゴキジムシロカシワ群集として記載されている。

これに対して、先述の柏崎付近のカシワ群落にはアキグミ、マユミ、カワラナデシコ、ミゾイチゴツナギ、オトコヨモギ、ヤブラン等の混生が見られ、本荘市付近のカシワ群落とは組成が異なるため、アキグミカシワ群落としてまとめられている。

以上のように、同じように日本海沿岸に分布しているカシワ風衝低木林には、2種類の構成要素が見られる。

次に、この地域に分布しているカシワの種類について報告しておきたい。純粋なカシワの実には丸味の強い形をもっているが、柏崎より本荘市に到る間のカシワの実は、やや細長い形をしている。(写真2)



写 真 2

文献によれば、カシワはコナラ節に属している種類の中では、もっともよく同じ節内の他種

と自然交配をして雑種をつくり易いとされている。おそらくは、ミズナラとの交雑によるカシワモドキ *Q. Xahugste-lepidota* Nakai であろうと思われる。

参 考 文 献

- 日本植生誌 東北 宮脇 昭 編著 至文堂
日本植物誌 大井次三郎 著 至文堂
日本の野生植物 木本 I 平凡社
原色日本植物図鑑 木本編〔II〕 保育社

ニホンザルとツキノワグマの出没

最近秋になると、ニホンザルやツキノワグマが人間の住んでいる地域に出没して問題となっている。サルは昔話の「猿蟹合戦」にもでてくるように、カニが大切に育てたカキの実がなる頃に横取りするほどサルは賢い。

さて、昔からサルと人間との付き合いは深いようであるが、現在では人間が山を去り平野に下ったので、よけいに秋ともなると人間が作った山のマメやサツマイモを、自分で植えたものごとく荒らしていく。女や子供たちであるとそこにも平気で取っていく。何かよい方法はないかと頭を悩ますこの頃である。

ところで、クマは山奥の木の実が不作の年には里へ下りてきて、庭先のカキの実を取りにくる。その際に家の中まで入りこんで家の人に危害を加えることもあるので、昔は山の家の玄関には、いざという場合に備えて槍を準備していた。

しかし、クマも野山の開発できっと餌がなくなり、里へ下りてくるのであろう。上市町では第2ダムの奥地に、クマのための食糧を供給する楽園を作っている。注目に値する。